

のを更に近代式のものに改造することが出来たのである。獨逸鐵鋼業全體に於て考ふるに通貨の膨脹は總べての債務及借入金を抹殺するに役立ち、其間企業家には多大の利得を得せしめた上、而も斯業改造を英國に於けるよりも遙に容易のものたらしめた、要するに獨逸は資金固濁に苦しんだ通貨膨脹時代以來、顯著なる改造發達を斯業に示したのである、近代式技術の採用を常に必要とする鋼鐵業に於て、生産原價の低減を計らんとするには大量生産組織に依る外はない、米、獨、佛、白等諸國の生産位(Coke over. battery furnace. Bessemer 式轉爐 Open hearth furnace)は戦後著々と擴張され、平均生産力は英國の夫を遙に凌駕するに至つた、バルフォア委員報告に依れば 1925 年(平均熔鑄爐能力)英國は約 41,000 噸、米國は約 138,000 噸、獨逸は約 96,000 噸であるが、此内獨逸は爾來新式大規模の生産組織を採用したるが故に、以上に見るよりも生産能力を更に増大して居る。鋼爐に關しては英國は他の大生産國よりも著しく遅れて居ると云ふ譯ではないけれども、大戰後の生産力増加は比較的遅々たる歩調を取居て、總計 632 基の Open hearth furnace の内 540 基は僅に 65 噸の生産能力を有つもので、100 噸以上のものは 32 基に過ぎないのである、以上大規模生産の利益なる所以を述べたのであるが、近大式大生産組織の下に經營される鐵鋼業に伴ふ主要なる經濟は、労働及燃料の節約に於て行はれるのである。米國に於ける實例を見るに、同國では勞賃高きが故に労働節約の研究が行はれ、従て労働者 1 人當の生産高は英國に於けるよりもずつと高くなつた。

燃料經濟に於て最顯著なる進歩を示したのは恐らく獨逸であらう、或計算に従へば同國は最近 25 年間の工業に要する熱單位を 6 割も減ずることが出来たと云ふ。即ち石炭を最有利に利用する方法を科學的に研究し、且骸炭製造に依り生ずる石炭瓦斯及其他の副産物を鐵鋼業に利用し得る様な整合的組織を作ることに依り、英國などには比類なき莫大な經費節減を行つた、斯の如くに統整された組織の完全なるものにあつては骸炭の費用は副産物の賣捌に依り殆ど償ひ得るのであつた。上述の如き條件を具備せる大工場(骸炭窯 熔鑄爐、伸鐵工場等を整合大工場組織)の利益は副産物を浪費に委ねることなく、有利に利用することに依り最高度の燃料經濟を爲し得る點にある。

骸炭窯からは骸炭の外照明用瓦斯、タール、油類、ベンゾール、アンモニア等を副産物として、作る。熔鑄爐は銑鐵を主産物とし、他に副産物としては低級瓦斯を生ずるのだが、之は骸炭窯を熱するに利用し得、そして同時

に之を前記骸炭窯から生ずる瓦斯と混合すれば鋼鐵の熔解、熔鐵の熱化其他に利用し得るのである。斯の如き複雑な生産工程を科學的に研究し、燃料經濟の解決に先鞭を着けたのは獨逸である、英國鋼鐵業も燃料問題に關しては大の改良が見られたのであるが、尙獨逸に比しては進歩の跡遅々たるものがある、以上の事業は 1928 年の秋出版された燃料及動力委員會の報告の中に強調されて居るのである。

炭坑業と鐵鋼業の統整 外國の工場及經營方法の優越を誇張して傳へるのは容易であるが、英國に於ても箇々の工場なれば外國工場と同様の新式且能率高きものがない譯ではない、けれども一般的平均に於て見ると其程度は無殘にも低いのである、そして競争に専らなる多數企業單位の存在及個人主義的傳統は近代生産組織に必要な集中化と統整を不可能ならしめる、統整的生產組織として比べる時は、英國にはルール地方に見るが如き大生産組織に能率の點に於て匹敵し得る工場は一もないと云ふて過言でない、英國の鋼鐵業は全體的に改造を要する状態にある、例へばスコツトランド、ミドロスコロ、シエフキールド、サウスウエールズ、ランカシヤの 5 地方に 5 箇の大生産組織を作り、合理的改造を行つた炭坑業と密接なる協同の下に經營が進められるならば、僅に現在よりも低廉且效果的に英國の需要する鐵鋼材の全部を供給し得るであらう、實際に於て斯業は種々の困難に遭遇しつつも、徐々に斯かる方向に展開を求めつつある。

最近に合同を實現した Vickers Armstrong Cammel Laird; Bolckow Vaughan Dorman Long; Guest Keen Nettlefolds Baldwin. 及ランカシヤ鋼鐵會社の如きは確に正路に一步を踏出せるものと云ふべきである、(註 1) 而し將來に残された問題は依然として多い、もつと綜合的に集中化を促進して内部的競争を排除するに努めないと、今迄に行つた重要な合同事業の效果は大部分消失して仕舞ふ様な甚だ危險視すべき状態が潜て居るのである。

(註 1) 海外に於ける英國鋼鐵市場の販賣統制及外國品との競争對抗の爲、英國鋼鐵輸出協會なるものが 1929 年に設立せられて居る、此協會は從來存した British Export Committee を擴張したものである。(海外經濟事情四ノ二四)

**北樺太新産炭地の發見及鐵鑛量確定** (極東地方)(昭和 6 年 5 月 15 日附同 6 月 1 日著在ハバロフスク小柳總領事代理報告)

北樺太に於ける新産炭地の發見 北樺太の西部オハ石油産地を距る 150 km. の地點に於て新産炭地發見せら

れたり。同産地の豫備的試掘に依り、炭層は 1.5m 乃至 4m に達すること明瞭となり、又同炭の分析に依り其年 齡上本炭は所謂クンギトに屬すること判明し、其火力は 遙に褐炭を凌駕せり。本炭の最初の試験は本年冬季行は れ、之が爲輕便鐵道敷設せられたり。新市オハに對する 燃料供給上特に重大なる意義を有する本新産炭地の 埋藏 量の研究を目下企圖し居れり。

マールイ・ヒンガン山脈に於ける鐵鑛量の確定 地質學 的調査の最終的結果に依りてマールイ・ヒンガン山脈に 於ける鐵鑛埋藏量は 3,900 萬噸と確證せられたり。(海外 經濟事情四ノ五五)

**ユーゴスラヴィア國アルミニウム原鑛 産出輸出狀況** (昭和 6 年 5 月 21 日著在ルーマニ ア藤田特命全權公使報告) アルミニウム鑛に銅鑛と共に ユーゴスラヴィア國の二大重要鑛産物なるが、銅鑛に 對しては國內の需要相當にあるも、アルミニウム原鑛た るボーキシットに對しては極めて少量の 國內消費あるの 外、其大部分は國外輸出品なり。

而してユーゴスラヴィア國のボーキシットの産額は 年々増加の傾向にあり、目下世界の第 4 位、歐洲の第 3 位を占め居れり。

ユーゴスラヴィア國のボーキシット鑛脈は同國山岳 地方至る所に之を發見し得るも、質と量とに於て勝れた るはアドリアテック海の一部諸島、同海に接近せる内地 殊に沿岸地方一帯に在る鑛床なりとす。以上の中目下採 鑛に従事せるは僅に Kin 及 Benkovatz 兩郡にある下 の 6 坑のみなり。

(1) Umei アドリアボーキシット會社所有に係り、 1920 年以來合理的採鑛を爲しつつあり、ユーゴスラヴ ィア國最大の鑛坑にして、其産額は同國年産額の約 8 割 に相當すと云ふ。

(2) Kalum フランソアマルン及ザグレブアルミニウ ム會社所有。

(3) Dili Jodraski Boksili 會社所有。

(4) Krusenovo フランス國アンドレ・アンリイ・コルム ニエ所有。

(5) Jesenice 同 1927 年採鑛開始。

(6) Rid 故ドラクホルスリツクの繼承者所有。

以上各坑の 1920 年以降採鑛量次の通り。

年次	(單位噸)					
	Umce 坑	Kalum 坑	Dili 坑	Krusenovo 坑	Jesenice 坑	Rid 坑
1920	9,123	2,374	4,220	3,400	—	—
1921	3,200	1,001	3,320	2,500	—	—
1922	12,050	10,000	4,240	5,000	—	—
1923	16,908	4,600	4,320	—	—	—

1924	7,544	400	641	—	—	10,300
1925	53,850	7,615	2,476	12,319	—	1,000
1926	102,859	8,419	9,667	10,864	—	—
1927	78,903	7,928	6,879	1,825	4,766	—

尚 1919 年以降全國産額次の通り。(噸)

1919 年	1,213
1920 年	19,117
1921 年	10,021
1922 年	31,290
1923 年	26,828
1924 年	18,885
1925 年	77,269
1926 年	131,839
1927 年	109,306
1928 年(自1月至10月)	47,378

上述の如く本鑛の國內消費は極めて少量にして、アル ミニウム工場としてはモステイ (Lyublijance 附近) に 小工場 1 箇所あるのみ、即ち大部分は原鑛の儘輸出せら るゝ次第なるが、1920 年以降の輸出量及其金額次の如し (但金額 1 デイナールは邦貨約 3 錢 6 厘に相當す。)

年次	輸出量(噸)	金額 (100 萬 「デイナール」)
1920	280	22
1921	2,940	176
1922	38,515	5,947
1923	8,360	2,689
1924	—	—
1925	53,704	8,460
1926	96,715	11,110
1927	97,380	1,090

主なる輸出先及其輸出數量次の通り。(單位噸)

年次	ドイツ	英國	ノール ー	米國	フラ ンス	オラ ンダ	イタ リー	オー ス トリー
1920	61	—	—	—	—	—	—	219
1921	1,834	—	—	—	—	—	525	588
1922	21,029	—	—	—	17,225	—	2	39
1923	5,000	—	—	2,750	—	—	568	41
1924	26	—	—	—	—	—	—	—
1925	1,000	8,550	53	34,200	500	10,400	—	—
1926	5,700	—	—	62,700	—	28,270	170	45
1927	13,000	—	—	22,950	—	51,250	10,119	—

以上に示す如くユーゴスラヴィア國のボーキシットの 主要なる輸入國は米國、オランダ、ドイツ、ノールウェー なるが、就中アルミニウムを多量に 産出する米國は原鑛 の不足を感じ、タルマチャ及エルツエゴヴァイナの 鑛脈に 著眼し居れり、又ドイツはユーゴスラヴィア 國內ボーキ シット産出のコントロールを目的とせる 一會社を創立し たり。

ユーゴスラヴィア國には 未だ完全なるアルミニウム製 造工場なく、前顯モステイの工場も單にアルミニウム半 製品として輸出するに過ぎざるが、1923 年以降の其輸出 の狀況を見るに次の通りなり。

年次	數量(噸)	金額 100 萬 「デイナール」
1923	304	32
1924	284	30
1925	830	10
1926	4,000	50
1927	321	9